

令和5年度

# 赤羽根の里だより

茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和5年4月13日(木)

校長 高橋 励



Dear Student(\*^\_^\*)

負けても、それは通過点！  
春の大会始まる！

先週の8日(土)、サッカー部を皮切りに、春の大会が始まりました。部活動を通して成長しようとしている人にとっては、この冬の間、仲間とともに磨いてきた技術と心を試す舞台です。20日までは1年生にとってのお試し部活動仮入部期間でもあるので、この機会にちょっと私の思いを伝えておこうと思います。

茅ヶ崎寒川地区には16校の公立中学校と1校の私立中学校があります。17チームで技を競い合って、優勝するのは1チーム。残る16チームは必ず負けます。では、負けたチームの選手たちには何も残らないのでしょうか？トーナメント戦であれば、1回戦が終わった時には出場チームのほぼ半分は負けることが決まっています。負けたチームが積み重ねてきた努力は無駄なものなのでしょうか？

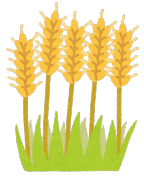
いろいろなとらえ方があるとは思いますが、私は「残るものはあると思うし、努力が無駄であるとは思わない」と考えます。

得点や速さ・距離などを競い合う場面では「勝つ」か「負ける」かが「結果」です。でも、自分や共に戦う仲間の力を伸ばすことを目標にした時には「どんなパフォーマンスを発揮できたか」が「結果」になります。

私は「結果は後からついてくる」というフレーズが好きです。相手と競い合うことを通して、お互いのパフォーマンスを発揮しながら、以前の自分を一つ超える力を出せたのであれば、たとえ負けた試合であってもそ

れは価値あるものとしてあなたの中に残ると信じています。そもそも、中学校の部活動(文化部も含めて)には大会やコンクールのないものもあります。勝ち負けだけが「結果」であるのならば、勝敗のない部の活動は「結果」のないものになってしまいます。

私は、大切なのは「なりたいたい自分になる」と努力することだと思いつつ、皆さんの活動を見ています。そして、できれば「負けそうなきに、自分に何ができるか考えて挑戦する」ことに取り組んでほしいと思っています。



これからの土・日はどの運動部も大会が予定されています。たとえ負けても、それは通過点！あなたはまだまだ成長する可能性を持っています。お互いの成長を「試し合う」挑戦する姿を期待しています。

## 保護者の皆さまへ ~お詫びと訂正~

4月6日に「授業参観・学年学級懇談会及び部活動説明会のお知らせ」を配付しました。コロナ前はこの春の懇談会当日に授業参観を行っていましたが、今年度は日程等の都合で授業参観は行いません。お詫びとともに訂正いたします。

また、家庭訪問については、2,3年生は今年もご希望のある家庭のみとさせていたでています(7組については別にお知らせしています)。学校では教科の授業が始まり、5月の体育祭に向けた取組みも動き出しています。1年生は知らず知らずのうちにたまった疲れが出る時期でもあります。ご家庭の様子で気にかかることがありましたら、各担任・顧問などにご連絡ください。